

# グループでのサイクリングを企画・実行する

私たちはこれまで一般から参加者を募り、数名のグループで走行するイベント『江戸ポタリング』を4回行いました。そこではグループで走行する際の問題点が徐々に浮かび上がり、それを解消するための方策を検討してきました。企画立案から公募まで、あるいは実走行でグループを取りまとめるスタッフ、そして一般からの参加者と、それぞれに注意すべき点があります。多くの方がこのような状況で利用できるように、それらの注意点を以下にまとめました。スタッフを担当する人や参加者に、立場に応じて各部分のコピーを配布するなど、実践的にご活用ください。

なお「3.参加者の注意事項」は、自転車走行の一般的な注意点としてもぜひ活用してください。

## 1. 企画立案時点での留意事項

### 明確な企画立案と簡潔明瞭な案内

- ・はっきりした目的や特徴があるコースの設定を行い、参加者の意向と相違がないようにする。
- ・必要十分な内容を簡潔明瞭な形で案内する。
  - コース名、目的や特徴、開催日、集合場所と時間、走行距離、難易度、解散場所、解散予定時間、持ち物、荒天時開催の有無、企画者名、連絡先

### 参加者の把握

- ・参加者の人数と自転車習熟度（特に初心・初級者）の把握を行う。
- ・参加者の人数と自転車習熟度に応じた適切なグループ分けを行う。

### 適切なスタッフの配備---リーダーとサブリーダーの設定

- ・スタッフの能力把握を行う。スタッフの主な役割は以下。
  - 道案内
  - 安全な走行の確保
  - パンクなどのトラブルの処理
- ・各グループに応じたスタッフの配備計画を立てる。
- ・1グループにスタッフが複数必要な場合は、統括者であるリーダー1名とその補助を務めるサブリーダー（場合により複数名）を配備する。
- ・標準的なスタッフの配備計画は以下。
  - 5~6人まで：スタッフ（リーダー）1人とし、先頭を走り道案内他のすべての役割を果たす。
  - 10人程度：リーダー1人+サブリーダー1人とし、先頭と最後尾に付く。
  - 10人以上：リーダー1人に加え、サブリーダーを参加者10人に1人の割合とし参加者の中に適当な間隔で配置する。

\*10人以上のグループ設定は、参加者の安全および一般の交通との関係から極力避ける。

#### 企画者間と参加者との連絡体系の確立

- ・企画者が複数のメンバーから構成される場合には、まず内部の明確な連絡体系を整備する。
- ・一般公募の参加者との連絡は、企画者の構成メンバーが複数であっても、窓口を一元化してスムーズな対応が取れるようにする。

#### 大人数となるイベントなどの場合の特別な留意点

- ・参加者の受け付けやグループ分けをするスタッフを配備する。
- ・コースの交通上の主要なポイント（交差点、コースが分かりにくい箇所）には、道案内および交通整理をする専門のスタッフを配備するのが望ましい。
- ・この専門のスタッフが配備できない場合はグループ先頭に位置する走行スタッフの数を増やし、このスタッフが必要ポイント直前にグループを離れ、道案内および交通整理を行う。役割を終えたらグループの先頭付近に復帰し、次のポイントに向かう。

## 2. スタッフ（リーダーおよびサブリーダー）の留意事項

#### スタッフの主な役割を確認

- ・道案内、安全な走行の確保、パンクなどのトラブルの処理

#### 事前打合せと現地集合

- ・スタッフは事前に目的とコース、そして参加者数とそれぞれの自転車習熟度（特に初心・初級者）の把握を行う。
- ・リーダーとサブリーダー間ではそれぞれの役割分担とグループ内での走行位置について事前に協議し、決定しておく。
- ・スタッフのうちの最低1人は集合時間の相当程度前（最低30分前）に集合場所に到着し、参加者を受け入れる体制を整える。

#### 参加者が集まったら

- ・ヒアリングなどにより参加者の自転車習熟度の把握を行う（各参加者が到着した時点で済ませておくのがスマートで円滑）。
- ・参加者に必要な事項の説明を行う。
  - 企画の目的、コースの簡単な紹介、昼食、解散場所と時間など
- ・走行に関する注意事項（「3.参加者の注意事項」参照）の説明を行う。初心・初級と思われる参加者に特に配慮する。

#### 自転車のチェック

- ・各自の自転車をチェック（特にブレーキ、空気圧）するよう促す。スタッフは、初心・初級の参加者を手助けする。

### 隊列の組み方と注意点

- ・先頭のスタッフの第一の役割は道案内であるから、コースを熟知した者とする。
- ・先頭のスタッフは常にグループの状況をとらえ（後方を確認し）、安全にすみやかにグループをコントロールする必要があるため、グループでの走行に習熟した人が相応しい。リーダーがその役を担えるのがベスト。
- ・初心・初級者は先頭スタッフのすぐ後ろ（できるだけ前方）に配置する。
  - 安全管理上、トラブルに迅速に対応するため。また、グループの速度を最低のパワーの人に合わせるため。
- ・最後尾のスタッフには、パンクをはじめとするあらゆるトラブルに対応でき、かつ安全にグループをコントロールできる能力を持つ人を配備する。
- ・最後尾のスタッフにこの2点を同時に満足できる者がいない場合は、それぞれの能力を持った2人を配備するのが望ましい。
- ・中央にスタッフを配備せざるを得ない大規模なグループにおいては、これら中央のスタッフの役割は複雑かつ重要である。
  - 前後の隊列の状況を把握し問題（トラブル発生、一部隊列の遅れなど）があれば、先頭もしくは前に位置するスタッフに報告する。（各スタッフは一定以上後方の状況が把握できないから）
  - 隊列が信号などで分断された場合には、すみやかに分断された列の先頭もしくは最後尾に廻りそのグループをコントロールすると同時に、前または後方のグループとの連係を保たなければならない。具体的には後方グループの先頭になった場合には、そのグループの安全を確保した上で、前のグループのスタッフに後方の状況を伝達しなければならない。
  - 隊列が長くなることによる他の交通へ及ぼす影響（車の左折、狭い道での車の追い越しなどの障害）を考慮した、適切な判断と対応が必要となる。場合によりグループを分断し、車などを適当なバランスで通行させる必要が生じる。
- ・大人数での走行は極力避ける。企画の条件等によりやむを得ない場合は、同一グループであってもスタッフの配備等を工夫し、小グループとして成り立つ編成とすることが望ましい。

### 交差点での留意点

- ・交差点などでの道案内および交通整理は、専門のスタッフを配備するのが望ましい。専門のスタッフが配備できない場合はグループ先頭に位置する走行スタッフの数を増やし、このスタッフが必要ポイント直前にグループを離れ、道案内および交通整理を行う。役割を終えたらグループの先頭付近に復帰し、次のポイントに向かう。
- ・交差点などで隊列が途切れた場合は、スタッフはすみやかに分断された列の先頭もしくは最後尾に廻りそのグループをコントロールすると同時に、前方または後方のグループとの連係を保つ。

手信号について

- ・ スタッフ間で手信号を確認する。
  - 手信号には道路交通法で定められたものがあるが、それ以外に自転車クラブなどで独自の手信号が使われている場合があるので注意する。
- ・ 参加者に必要最低限の手信号の説明をする。
  - 参加者の中には走行中に片手で合図を出すことが難しい場合があるので、『可能であればやってみてください』というお願いにすると良い。
- ・ スタッフは手信号を実施する。
  - 後続の参加者への合図としてだけでなく、道路を共有する車にも積極的にアピールして安全を確保する。

左折する車への配慮

- ・ 隊列が長くなると、交差点等では左折する車が通行不能になる。この場合、隊列を一時分断し車を先行させる。
- ・ 直進する交差点に左折する車が止まっている場合は追い越さずにその後ろに停車し、車の左折完了後、直進する。



左折の手信号



停止の手信号

### 3. 参加者の注意事項

\* スタッフは参加者が集合したら、次の事項を注意する

集団での走り方

- ・ 一列で走り、並走はしない。
- ・ 車間距離を充分とって走る（1m以上）
- ・ 停車するときは手信号もしくは声を掛けて合図し、急停車はしない（後続の人が対応できるように）
- ・ 前走者との距離が開いても慌てずゆっくり追いつくように。遅れた場合でもスタッフが道に迷うことがないようにサポートする。



車道は左端を一列で走る

車道の走り方

- ・ 車道では左側通行を遵守し、絶対に右側通行はしない。

### 歩道の走り方

- ・歩道では原則として車道寄りを一列で走る。  
\* 道路交通法では『車道寄り』を通行することになっている。しかし対向自転車などとの関係から車道寄りを走れない場合は、左右どちらかの端に寄り、隊列が広がらないように注意する。



歩道は原則として車道寄りを一列で走る

### 歩道走行時のマナー

- ・歩道では歩行者の安全に配慮し、スピードの出し過ぎに注意する。歩行者に注意を促したりスペースをあけてもらうときは、できるだけ声を掛け(やたらにベルを鳴らさない)お互いが気持ちよく歩道を使えるようにする。
- ・交差点で停車するときは、歩行者や他の交通の妨げにならないよう配慮する。特に直行方向の自転車と歩行者に気を配る。



交差点で停車するときは歩行者や他の自転車の妨げにならないように注意する

### 駐輪に際してのマナー

- ・歩道上に駐輪するときには、歩行者や自転車の通行の邪魔にならないよう注意する。点字ブロック上に駐輪しない、電話ボックスの出入り口をふさがないなど、歩道上や周辺に設置されているものにも配慮する。
- ・集団で駐輪するときには、できるだけコンパクトにきちんと整理して並べる。

### 出発前に自転車のチェック

- ・各自の自転車をチェック(特にブレーキ、空気圧)する。初心・初級の参加者はスタッフに声を掛け、指導を受ける。

### トラブルが発生したら

- ・パンクなどのトラブルが発生しても慌てずに、安全な場所にゆっくり停車する。
- ・安全を確保して待機し、スタッフが近付いたら声を掛け、指示を受ける。